

## 7水系緊急治水対策プロジェクト

# 阿武隈川緊急治水プロジェクト

～本川・支川の抜本的な治水対策と流域対策が一体となった総合的な防災・減災対策～

○令和元年10月台風第19号により、甚大な被害が発生した阿武隈川水系において、国、県、市町村が連携し、「阿武隈川緊急治水プロジェクト」として取りまとめました。

○国、県、市町村が連携し、以下の取り組みを実施していくことで、浸水被害の軽減、逃げ遅れゼロ、社会経済被害の最小化を目指します。

①被害の軽減に向けた治水対策の推進【河川における対策】

②地域が連携した浸水被害軽減対策の推進【流域における対策】

③減災に向けたさらなる取り組みの推進【ソフト施策】



## 河川における対策

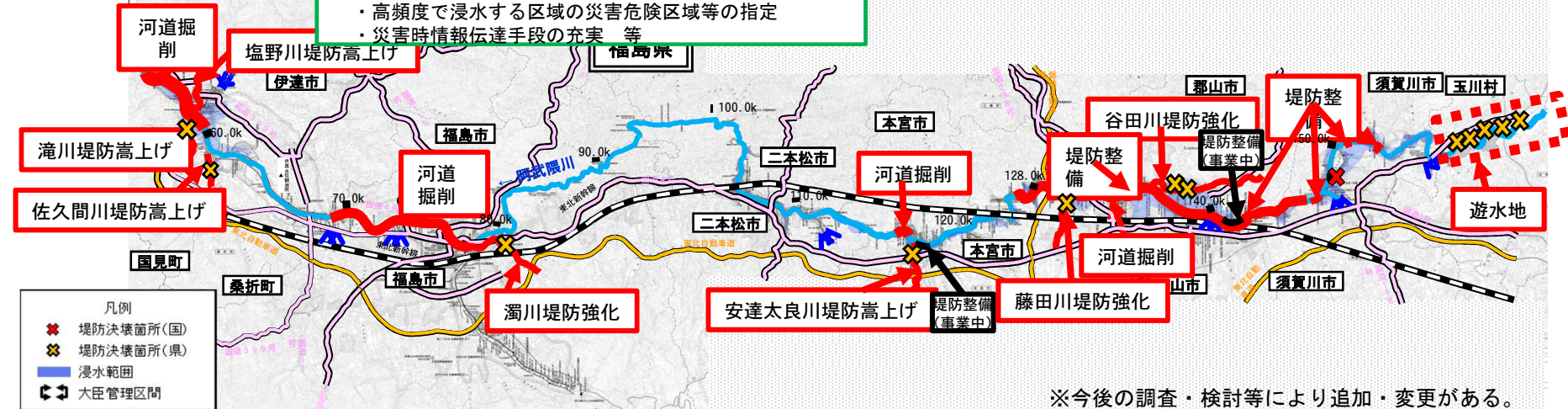
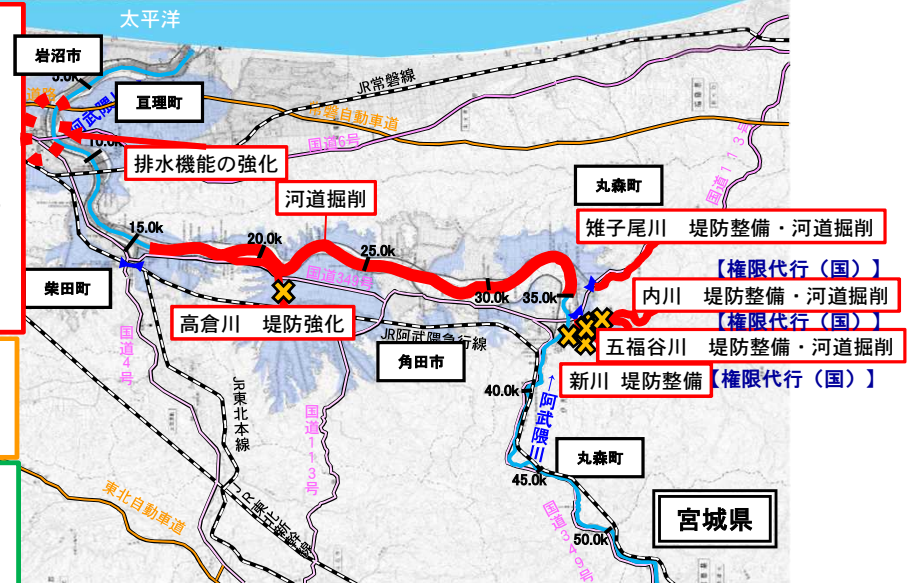
全体事業費 約 1,354 億円  
 災害復旧 約 181 億円  
 改良復旧 約 1,173 億円  
 事業期間 令和元年度～令和10年度  
 目標 【令和6年度まで】  
 台風第19号における本川下流域の越水防止  
 支川堤防強化の完了  
 【令和10年度まで】  
 台風第19号における本川からの越水防止  
 対策内容 河道掘削、遊水地、堤防整備 等

## 流域における対策

- ・一時貯留施設の設置
- ・排水機能の強化及び耐水化
- ・準用河川の整備促進 等

## ソフト施策

- ・バックウォーター影響区間における危機管理型水位計及びカメラの設置及び避難体制の構築
- ・中小河川や内水を考慮したタイムライン策定推進
- ・浸水リスクを考慮した立地適正化計画の展開
- ・高頻度で浸水する区域の災害危険区域等の指定
- ・災害時情報伝達手段の充実 等



※今後の調査・検討等により追加・変更がある。



～大規模氾濫被害の最小化に向けた、より水害に強いまちづくりの実践～

○令和元年10月台風第19号により、甚大な被害が発生した鳴瀬川水系吉田川において、国、県、市町が連携し、「吉田川・新たな水害に強いプロジェクト」として取りまとめました。

○国、県、市町が連携し、以下の取り組みを実施していくことで、より水害に強いまちづくりを目指します。

### ①被害の軽減に向けた治水対策の推進【河川における対策】

## ②地域が連携した浸水被害軽減対策の推進【流域における対策】

### ③減災に向けたさらなる取り組みの推進【ソフト施策】

【位置図】



## 河川における対策（治水安全度向上）

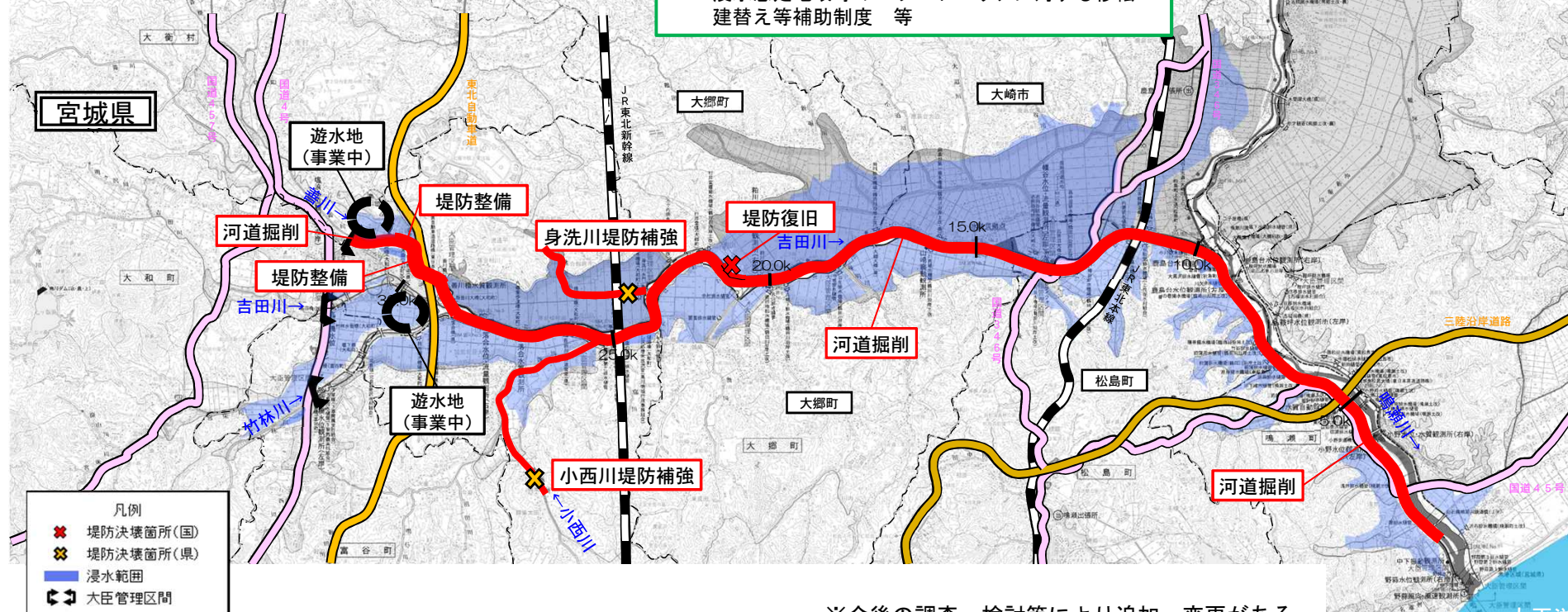
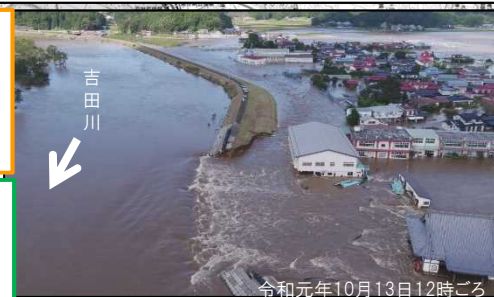
|       |                           |
|-------|---------------------------|
| 全体事業費 | 約 2 6 7 億円                |
| 災害復旧  | 約 2 6 億円                  |
| 改良復旧  | 約 2 4 1 億円                |
| 事業期間  | 令和元年度～令和 6 年度             |
| 目 標   | 台風第19号洪水における<br>本川からの越水防止 |
| 対策内容  | 河道掘削、堤防整備等                |

## 流域における対策

- ・水防災拠点の拡張、増設
- ・内水対策（雨水貯留施設・調整池・排水路整備）
- ・避難、復旧道路の嵩上げ
- ・排水機場の非浸水化 等

## ソフト施策

- ・ 地区別ハザードマップ等の作成
- ・ 要配慮者サポーターの育成
- ・ 防災行政無線屋外子局増設による避難体制の強化
- ・ 浸水想定地域等のハザードエリアに対する移転  
建替え等補助制度 等



※今後の調査・検討等により追加・変更がある。

太平洋



# 久慈川緊急治水対策プロジェクト

## ～多重防御治水の推進～

○令和元年10月台風第19号により甚大な被害が発生した久慈川水系において、国、県、市町村が連携し、「久慈川緊急治水対策プロジェクト」として取りまとめました。

○国、県、市町村が連携し、以下の取り組みを実施していくことで、社会経済被害の最小化を目指します。

①多重防御治水の推進【河道・流域における対策】

②減災に向けた更なる取組の推進【ソフト施策】





# 那珂川緊急治水対策プロジェクト

～多重防御治水の推進～

○令和元年10月台風第19号により甚大な被害が発生した那珂川水系において、国、県、市町が連携し、

「那珂川緊急治水対策プロジェクト」として取りまとめました。

○国、県、市町が連携し、以下の取り組みを実施していくことで、社会経済被害の最小化を目指します。

①多重防御治水の推進【河道・流域における対策】

②減災に向けた更なる取組の推進【ソフト施策】

## ■河道・流域における対策

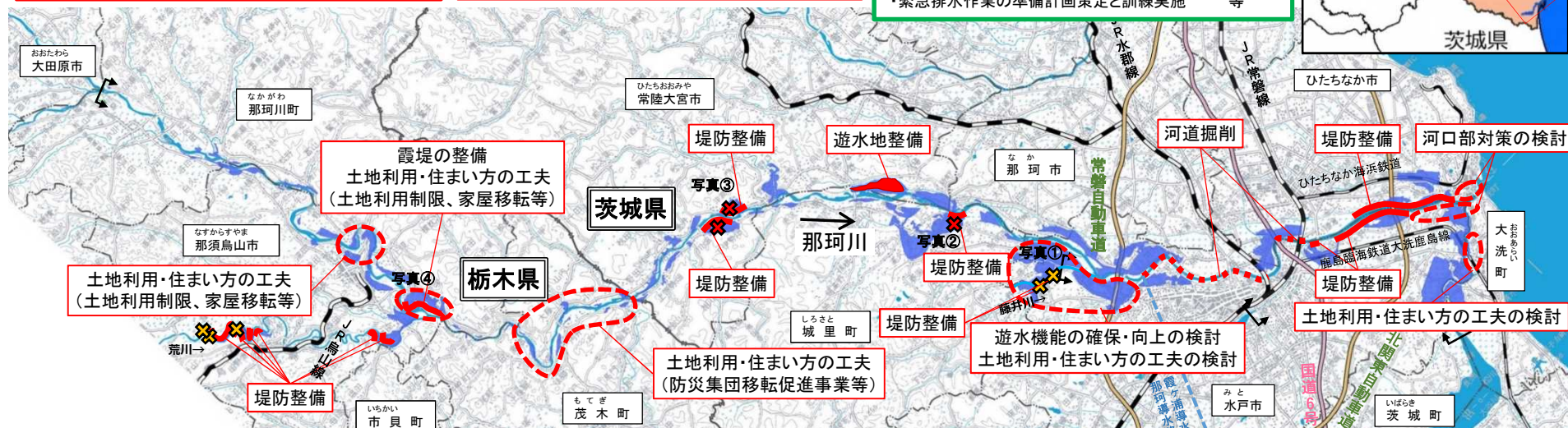
全体事業費 約521億円  
 災害復旧 約101億円  
 改良復旧 約420億円  
 事業期間 令和元年度～令和6年度  
 目 標 台風第19号洪水における本川からの越水防止  
 対策内容 河道掘削、遊水地、堤防整備 等

## ■河道・流域における対策

【土地利用・住まい方の工夫】  
 ・浸水が想定される区域の土地利用制限  
 （災害危険区域の設定等）  
 ・家屋移転、住宅の高上げ  
 （土地利用一体型水防災事業、防災集団移転促進事業等）  
 ・高台整備

## ■ソフト施策

・越水・決壊を検知する機器の開発・整備  
 ・危機管理型水位計、簡易型河川監視カメラの設置  
 ・ダム操作状況の情報発信  
 ・台風第19号の課題を受けたタイムラインの改善  
 ・講習会等によるマイ・タイムライン普及促進  
 ・防災メール、防災行政情報伝達システム、防災行政無線等を活用した情報発信の強化  
 ・要配慮者利用施設の避難確保計画作成の促進  
 ・緊急排水作業の準備計画策定と訓練実施 等



写真④ 浸水被害状況（那珂川左岸61.0k）



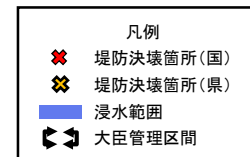
写真③ 堤防決壊状況（那珂川左岸40.0k）



写真② 浸水被害状況（茨城県那珂市、城里町）



写真① 浸水被害状況（茨城県水戸市）

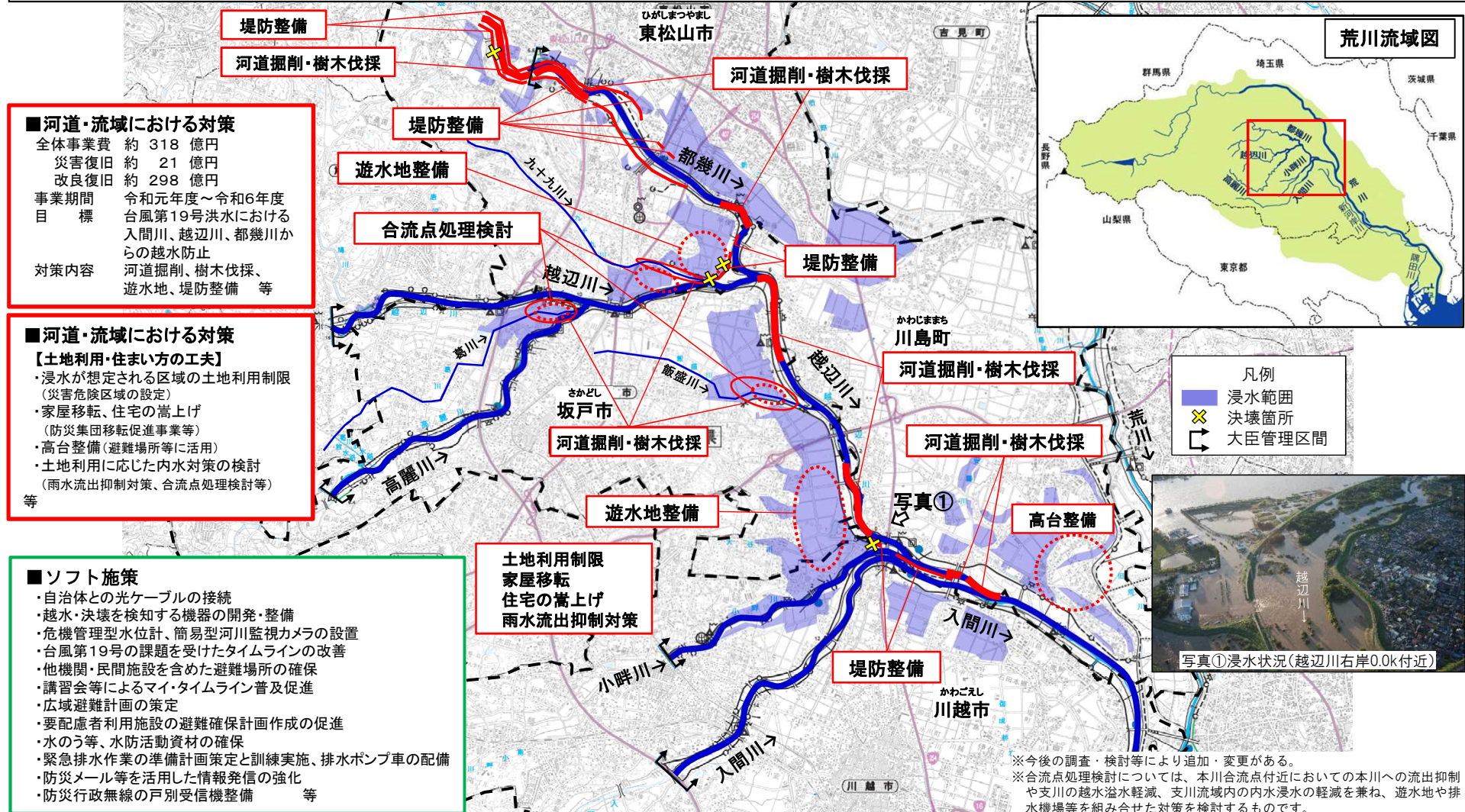


※今後の調査・検討等により追加・変更がある。



# 入間川流域緊急治水対策プロジェクト ～多重防御治水の推進～

- 令和元年10月台風第19号により、甚大な被害が発生した、入間川流域において、国、県、市町が連携し、「入間川流域緊急治水対策プロジェクト」として取りまとめました。
- 国、県、市町が連携し、以下の取組を実施していくことで、社会経済被害の最小化を目指します。
  - ①多重防御治水の推進【河道・流域における対策】
  - ②減災に向けた更なる取組の推進【ソフト施策】



※今後の調査・検討等により追加・変更がある。  
 ※合流点処理検討については、本川合流点付近においての本川への流出抑制や支川の越水溢水軽減、支川流域内の内水浸水の軽減を兼ね、遊水地や排水機場等を組み合わせた対策を検討するものです。



～首都東京への溢水防止及び沿川・流域治水対策の推進～

○令和元年10月台風第19号により、甚大な被害が発生した、多摩川において、国、都、県、市区が連携し、「多摩川緊急治水対策プロジェクト」として取りまとめました。

○国、都、県、市区が連携し、以下の取り組みを実施していくことで、「社会経済被害の最小化」を目指します。

### ①被害の軽減に向けた治水対策の推進【河川における対策】

## ②地域が連携した浸水被害軽減対策の推進【流域における対策】

### ③減災に向けた更なる取組の推進【ソフト施策】



## ■河川における対策

全体事業費 約191億円

災害復旧 約 28億円

改良復旧 約163億円

事業期間 令和元年度～令和6年度

目 標 台風第19号洪水における本川からの越水防止

|      |                      |
|------|----------------------|
| 对策内容 | 河道掘削、樹木伐採、堰改築、堤防整備 等 |
|------|----------------------|

## ■流域における対策

(下水道事業等の整備促進)

・流出抑制施設の整備等

- ・既存施設(五反田放水路(建設中))の活用に

よる雨水貯留

・下水道樋管等のゲート自動化・遠隔化等

- ・移動式排水設備(排水ポンプ車等)の整備

- ・土のう等の備蓄資材の配備等

## ■ソフト施策

・自治体との光ケーブル接続

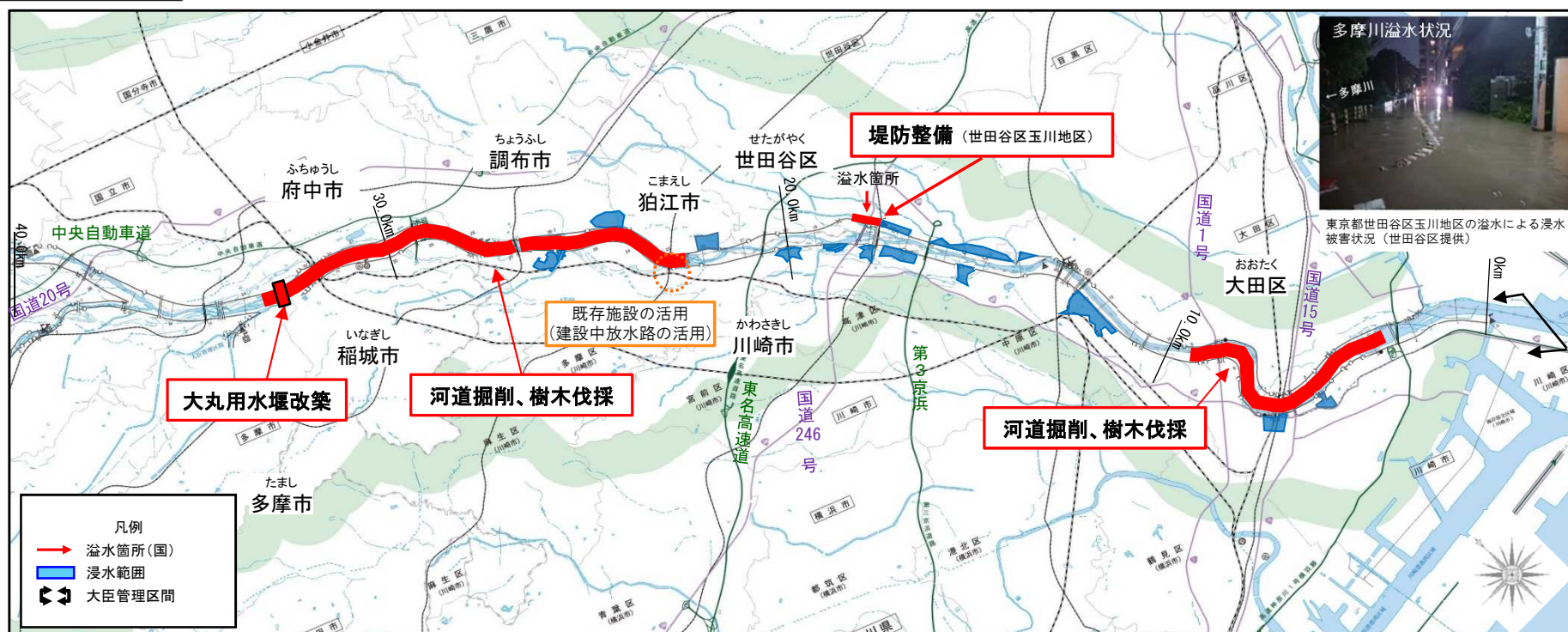
・簡易型河川監視カメラの設置

- ・多機関連携型タイムラインの策定、運用

- ・講習会等によるマイ・タイムラインの普及促進

・要配慮者利用施設の避難確保計画作成の促進

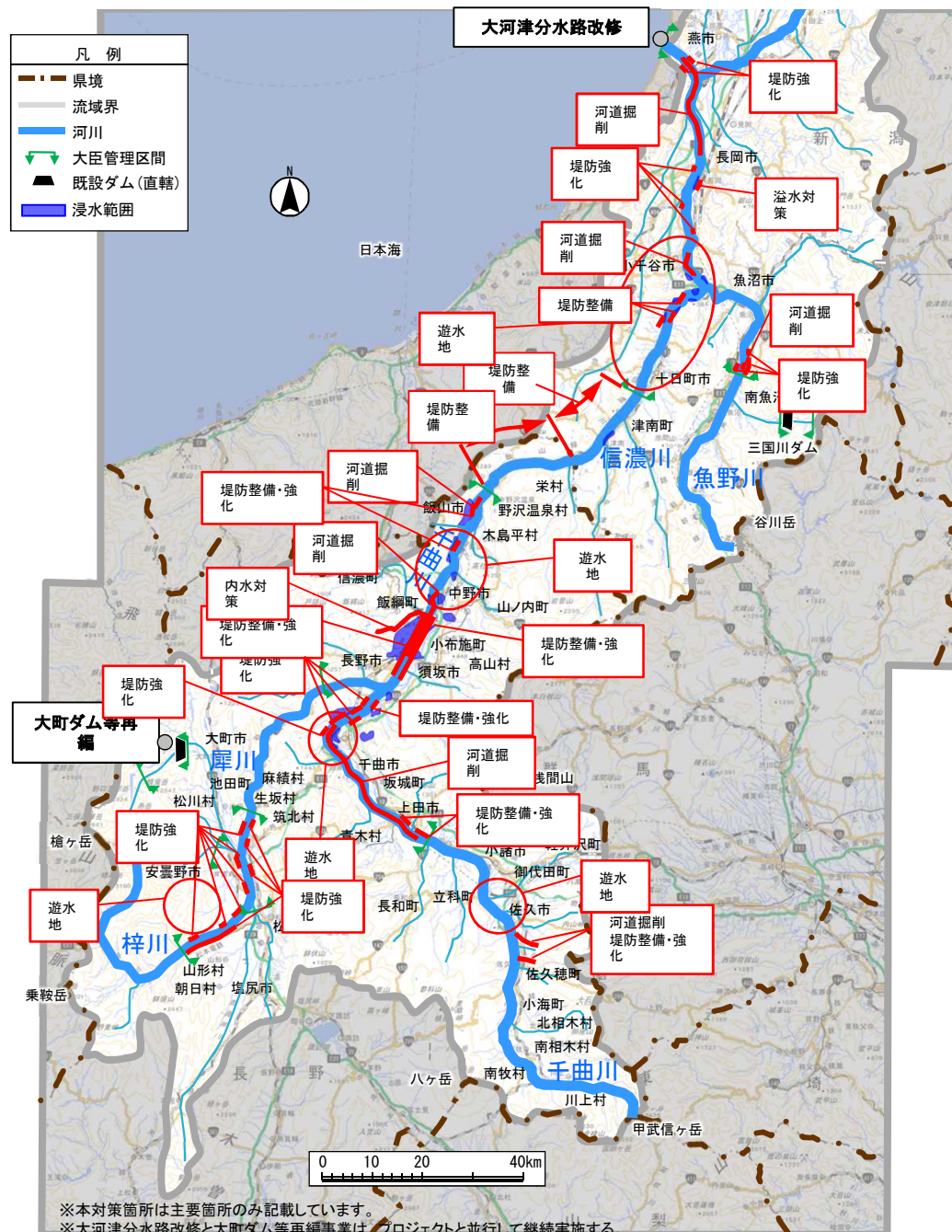
・自治体職員対象の排水ポンプ車運転講習会の実施 等



※今後の調査・検討等により追加・変更がある。

# 信濃川水系緊急治水対策プロジェクト

～ 「日本一の大河」上流から下流まで流域一体となった防災・減災対策の推進 ～



○令和元年10月台風第19号により、甚大な被害が発生した信濃川水系において国、県、市町村が連携し、「**信濃川水系緊急治水対策プロジェクト**」として取りまとめました。

○国、県、市町村が連携し、以下の取り組みを実施していくことで、概ね5年間で「再度災害防止・軽減」、「逃げ遅れゼロ」、「社会経済被害の最小化」を目指します。

- ①被害の軽減に向けた治水対策の推進【河川における対策】
- ②地域が連携した浸水被害軽減対策の推進【流域における対策】
- ③減災に向けた更なる取組の推進【ソフト施策】

## ■河川における対策

全体事業費 約1,227億円  
 災害復旧 約214億円  
 改良復旧 約1,013億円  
 事業期間 令和元年度～令和9年度  
 目 標 【令和6年度まで】  
 ・信濃川本川及び千曲川本川の堤防の被災した区間での越水防止  
 【令和9年度まで】  
 ・千曲川本川からの越水防止  
 対策内容 河道掘削、遊水地、堤防整備・強化

## ■流域における対策

- ・ため池等既存施設の補強や有効活用
- ・田んぼダムを活用した雨水貯留機能の確保
- ・学校グラウンドなどを活用した雨水貯留施設
- ・排水機場等の整備、耐水化の取組
- ・防災拠点等の整備

## ■ソフト施策

- ・「まちづくり」や住まい方の誘導による水害に強い地域づくりの検討
- ・高床式住まいの推進
- ・マイ・タイムラインの普及
- ・公共交通機関との洪水情報の共有
- ・住民への情報伝達手段の強化



長野市穂保地先の堤防決壊、  
浸水被害状況



新潟県小千谷市内における  
浸水被害状況

※今後の調査・検討等により追加・変更がある。